

## 口内法撮影（一般向け）

### 概要

口内法 X 線撮影は歯科領域で用いられる撮影法の中で最も高頻度に撮影されるものです。小さなフィルム（31mm × 41mm）を診断したい歯の裏側に置き、歯に対して正面になるよう X 線を照射します（図 1）。目的としてはう蝕（カリエス）、歯周病変そして根尖病変などの描出に用いられます（図 2～図 4）。

### 口内法 X 線撮影の種類

口内法 X 線撮影には標準的な撮影法以外に、より大きなフィルム（57mm × 76mm）を嚙んで撮影する咬合法（図 5）やフィルムの中央にスポンジを付け、そこを嚙んで撮影する咬翼法があります。

咬合法はのう胞性病変や唾石、過剰歯など病巣が広く多数歯にまたがる場合や顎骨に及ぶ場合に用いられます。また、咬翼法は歯と歯の隙間（隣接面）に好発するう蝕を診断する場合に用いられます。

### 口内法 X 線撮影の注意点

口内法 X 線撮影は患者さんの口腔内にフィルムを入れることによる不快感を伴う撮影です。特に奥歯の撮影の際には嘔吐を誘発させることもある非常にデリケートな撮影です。

基本的にフィルムの保持は患者様ご自身の指で行っていただきます。ご自身での保持が困難な場合は付き添いの方が保持しますが、施設により異なりますので、撮影者にご相談ください。

口内法 X 線撮影による X 線被ばくについてですが、局所的に治療する歯を対象としており、直接生殖腺には届きません。散乱線として極微量検出できるだけです。撮影時に防護エプロンを使用していれば、検出できませんし、防護エプロンを使用しなくても、生殖腺に届く散乱線は極々微量ですのでご心配はいりません。もし、患者さんが妊娠していたとしても、実際には胎児に影響が及ぶことはないと考えられます。それよりも X 線撮影をすることで正しい診断をすることの方が重要です。



図1 口内法 X線撮影



図2 う蝕 (カリエス)



图 3 齿周病变



図 4 根尖病変



図 5 咬合法撮影



図 6 デンタル用 CR 読取装置

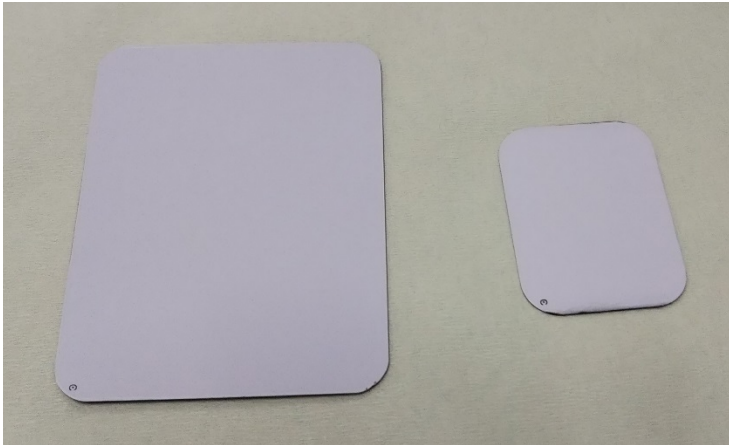


図 7 イメージングプレート (IP) 左側が咬合用。右側が口内法用。